

ニホンウナギ生息状況調査

(内水面資源生息環境改善手法開発事業)

福井克也・内田 浩・石田健次

1. 研究目的

近年、ウナギの稚魚や漁獲量が激減しているが、ウナギ資源に関する知見は極めて乏しく、効果的な資源の保護や回復への取り組みに至っていない。このため、県内のウナギ資源に関する基礎的知見を集積することを目的に、過去からウナギ漁が盛んな神西湖と高津川において、シラスウナギの来遊状況、資源の分布や生息環境等に関するデータの収集・解析を行った。

2. 研究方法

(1) シラスウナギ来遊量調査

神西湖と日本海の接続河川である差海川河口において平成 28 年 1～5 月および平成 29 年 2～3 月にかけて月 1 回、新月の大潮時に灯火採集によって行った。

(2) 小型ウナギ生態調査

神西湖沿岸において、手タモにより沿岸に漂着した水草塊、湖底に堆積したヨシ屑、シジミ殻を掬い上げ、その年遡上した小型ウナギ（以下、クロコ）の採捕を行った。調査は平成 28 年 7 月～9 月にかけて 6 回実施し、クロコの生息場所、全長、体重、食性について調査した。

(3) 神西湖流入河川におけるウナギ生態調査

平成 28 年 10 月～12 月にかけて、神西湖に流入する 5 河川において、電気ショッカーによる採捕を 6 回行い、ウナギの生息場所、全長、体重、食性について調査した。

3. 研究結果

(1) シラスウナギ来遊量調査

平成 28 年 2～5 月および 29 年 2～3 月にかけて 278 尾採捕した。平成 28 年 4 月が最も多く、234 尾を採捕した（図 1）。シラスウナギの全長は 54.5～65.0 mm（平均 60.0mm）、体重は 0.06～0.16g（平均 0.12g）であった。

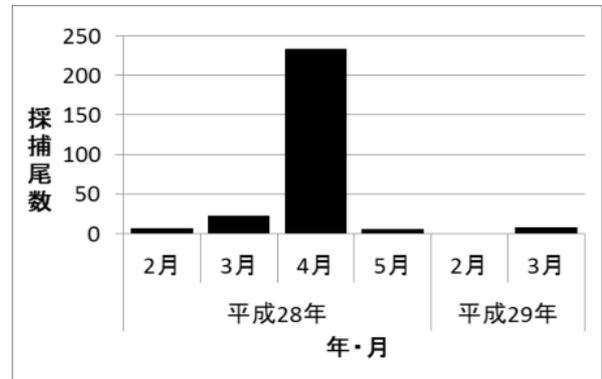


図 1 シラスウナギ採捕尾数の経月変化

(2) 小型ウナギ生態調査

神西湖の沿岸 3 か所で調査を行い、74 尾のクロコを採取した。クロコは沿岸に漂着したツツイトモの塊中から 59 尾、湖底に堆積したヨシ屑中から 14 尾を採取した。採取されたクロコの全長の範囲は 62～168 mm で平均は 90.4 mm であった。体重の範囲は 0.43～5.12 g で平均は 0.86 g であった。クロコの胃内容物については多毛類、ヨコエビ、イソコツブムシ、ユスリカ幼虫、蜻蛉目幼虫であった。

(3) 神西湖流入河川におけるウナギ生態調査

5 河川中、4 河川で 55 尾のウナギを採捕した。概ね全長 30 cm を超えるウナギは河川中の構造物、大型の転石や蛇籠、水草のパッチ、河床に堆積したゴミや落ち葉中から採捕され、30 cm 未満の小型個体は河床に堆積した落ち葉中や河床の砂泥中から採捕された。採取されたウナギの全長の範囲は 115～749 mm であった。体重の範囲は 1.68～860.6 g であった。胃内容物については、水棲・陸棲昆虫、ミミズ、カエル、甲殻類等であった。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、「平成 28 年度内水面資源生息環境改善手法開発事業」報告書として取りまとめた。